

さんま漁船事故ゼロを目指して

さんま漁船の事故は、例年、最盛期を迎える9月から増える傾向にあり、船舶の機関故障や衝突・乗揚げ、また、乗組員の負傷事故が絶えません。

特に次の4つのポイントを意識して、乗組員全員で事故ゼロを目指しましょう。

POINT. 1

機関故障・絡網に注意!

- 定期的な機関整備が重要です。
- 発航前点検による機関故障の予防を徹底してください。
- 自船または他船の投網がプロペラに絡網し、運航不能となる事例が発生しております。見張りの励行をお願いいたします。



POINT. 2

衝突・乗揚げに注意!

- 見張りは、レーダーと目視で常時続けてください。
- 漁船がふくそうするチェックポイントや、沿岸部付近の定置網等の漁具には特に注意が必要です。
- 乗組員や僚船へ声かけをして、見張りの徹底や居眠り防止の対策をお願いいたします。



自船を守るために…

簡易型AISの導入を!

衝突事故を未然に防ぐため、荒天時でもお互いの位置や針路を確認できる、簡易型AISの導入が有効です!

日本漁船保険組合が助成事業を引き継がれましたので、この機会に是非導入を検討してください! (詳細は最寄りの漁船保険組合へ)



海難ゼロへの願い!

広尾海上保安署
01558-2-0118

POINT. 3

転覆事故に注意!



- 最新の気象情報を確認し、海上荒天が予想される場合は**早めの避難**をお願いいたします。
- できる限り単独操業は避け、**僚船と行動して相互に安全を確認**しましょう。
- 漁獲物、漁具等の積み込み状況によっては復元力の低下を招きます。
開口部の閉鎖や移動物の固縛もしっかり行ってください。
- 転覆事故は行方不明者を伴う事故に繋がります。命を守るため、**救命胴衣は必ず着用**しましょう。

POINT. 4

負傷事故に注意!

「魚倉転落」事故にも注意!



- 必ず責任者を決め、安全管理をお願いいたします。
- 経験の浅い乗組員へ積極的に教育しましょう。
- 常に作業状態を確認して、機器を直ぐに停止できる状態としましょう。
- 甲板上を含む船外では**救命胴衣を必ず着用**してください。
- 負傷事故に限らず、洋上での急病の発症も増加しております。責任者は乗組員の体調管理等の把握に努めてください。



海難ゼロへの願い!

広尾海上保安署
01558-2-0118